

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1291200150		
法人名	株式会社たんぼぼ介護サポートセンター		
事業所名	グループホームたんぼぼの家		
所在地	千葉県松戸市六高台7-9		
自己評価作成日	平成24年10月23日	評価結果市町村受理日	平成25年1月15日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaku.jp/12/index.php
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	NPO法人ヒューマン・ネットワーク		
所在地	千葉県船橋市丸山2丁目10番15号		
訪問調査日	平成 24年12月10日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

地域に溶け込んだグループホームたんぼぼの家として位置付けており、地域の諸活動にも積極的に参加している。
 家庭的な環境のもとで、安心と尊厳のある生活をされ、可能な限り自立した毎日が送れるよう支援できるように努めています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当ホームは医療機関との連携体制がよく整備されており、重度化や終末期に向けた方針もしっかり構築されているため、ホームで最期を迎えることを希望する利用者にとって大きな安心が得られている。また、介護相談員の受入れや市の生活支援課等と連絡を常に取り合っており、困難事例の相談への対応や、必要に応じて受け入れるなど市との連携が密にとれている。更に、利用者の持てる力を最大限引き出せるよう、食前の盛り付けや後片付け等のおのおの役割を持って頂き達成感と満足が得られる支援を根気よく行っている。また、ハリと変化のある生活、眼を外に向けた支援を目指して散歩と外気浴は毎日実施しクマ椅子の利用者も含め近隣の公園やお寺へ出掛けしている。季節毎の盆踊りへの参加や文化祭の参観など多彩な企画を立て実施している。新しく掲げた「安心して生活できる家・自立を支援する家・地域と交流が持てる家」の理念の実践に向け真摯に取り組んでいる点を高く評価したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の活動に参加しながら、地域の方々との交流を深め、日常生活が安心と尊厳の暮らしが出来るよう支援しております。	「利用者が安心して生活できる家、自立を支援する家、地域の方々と交流が持てる家」というホームの理念を新たに作り、玄関入り口にも掲示している。ホームが利用者にとって第2の家庭になれるよう、ミーティングやグループホーム会議で職員が共有し実践に繋げるよう努めている。	新しく掲げた理念を運営推進会議にも取り上げ、参加メンバーの方々によく説明し理解が得られるよう希望したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	町会の一世帯として交流しており、町会のお祭りや文化祭等に参加しております。	毎日実施している散歩時には挨拶を交わしたり、買い物に外出する時にも地域の方から声を掛けて頂いている。発行の「たんぼぼの家通信」を町会長や民生委員に届けると共に、ホーム玄関先の「インフォメーション」板にも掲示して地域に情報発信をしている。また文化祭や盆踊り大会等の行事にも積極的に参加するなど、「地域の方々との交流が持てる家」の実現に向けた働きかけが優れている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	2ヶ月に一度の「通信」を発行しており、町会長さん・民生委員さんに届けるとともに、グループホームのほかのインフォメーションにも掲示して、見て頂いております。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議の委員は町会長・副会長・民生委員利用者家族の方々で2ヶ月に一度の会議を開き、利用者の状況や行事などを報告し、意見を伺いサービス向上に活かしています	2ヶ月に1回の運営推進会議は毎回10名弱のメンバーで行われている。行事や苦情報告・メンバーからの意見等詳細に記録されておりホーム運営に活かす努力が確認できた。更に多くの家族に参加いただくよう働きかけを期待したい。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	日常的には連絡は取っていませんが、月に一度市より相談員が来られ、利用者の方と2時間ほどお話をさせていただいております。	介護相談員を毎月受け入れ、利用者の生の声や問題点など聴取しホームと話し合い、記録して情報の共有を図っている。また市の生活支援課とは常に連絡を取り合うなど市との連携は取れている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	拘束はしていません。	「身体拘束廃止に向けての取り組み」を重要事項説明書に明記し、契約時に身体拘束が利用者に見える身体的・精神的苦痛の理解に努め、併せて拘束しない事によるリスクについても納得戴くようにしている。昼間の玄関施錠はしていない。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止関連法について学び、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支	成年後見制度について学び、現在2名の方が活用されています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	十分な説明をし、理解・納得のうえ契約を行なっております。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	運営推進会議では、利用者家族様も参加していただき、意見を伺い運営に反映しております。	主に面会時に意見や要望を伺っており、運営推進会議に参加の家族からはその場で要望など聴き取って運営に反映させるようにしている。「お小遣いの内容」説明の報告時に毎月利用者の暮らしぶりを報告しており、体調の変化や食事形態の変更時などは適時電話で連絡を取り合っており、家族からは対応が優れているとの満足の声が寄せられている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者会議・センター会議・グループホーム会議などで意見や提案の機会を設け、反映させております。	グループホーム会議やセンター会議時に意見や提案の機会を必ず設け、現場職員の意見やアイデアをケアプランや運営に活かしている。聞き取り調査で活発な意見が交わされている事が窺えた。また2ヶ月に1回の社内研修やグループホーム研修のほか、認知症の外部研修にも積極的に参加させ介護知識・介護技術の向上を図っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の勤務希望を受け入れ、趣味を活かしたレクリエーションを行なって頂くなど、やりがいのある仕事をしていただいております。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	2ヶ月に1度の社内研修会や、グループホームの研修を行ない、また外部の研修会にも参加しております。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	松戸市グループホーム協議会に参加しています。他施設の見学を通じてサービスの向上に取り組んでおります。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	自宅に出向き、本人と面接し困っていること・不安な事・要望に耳を傾けながら、安心を確保できるための関係作りに努めております。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	自宅に出向き、本人や家族が困っていること・不安な事・要望に耳を傾けながら、安心を確保できるための関係作りに努めております。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	本人と家族がまず必要としている支援の見極めの対応に努めております。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は自立支援に向け、出来ることは共に行なうようにしております(居室の整理整頓や洗濯物たたみ・調理など)。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員は家族様の面会時など居室でゆっくり話し合ってもらえるよう、お茶をお出しして楽しんでいただけるようにしています。近況報告もしています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に見えられた時は、ホール・居室でゆっくりして頂けるよう配慮しています。	家族の面会以外に友人・親戚の訪問があり、ホールや各居室でゆっくり会話ができるようお茶など出して寛げるよう配慮している。また買い物や、利用者行きつけの美容院への支援も行なっており、馴染みの人や場所との関係が途切れない支援に努めている。更に併設サービスの利用者と仲良くなつて交流が行なわれている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや行事・散歩の中で、利用者同士の関係が密になるよう配慮し、穏やかに生活できるように支援しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	本人や家族の相談があった時に対応しております。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者の思いや希望は日常の会話や観察などで詳細に記録し、グループホーム会議やカンファレンス会議などで検討し、その把握に努めケアプラン作成に役立てています。	日々の生活の中の会話や観察などで一人ひとりの思いや希望を把握し記録して居室担当者と共に職員が共有している。更に毎月訪問を受け入れている介護相談員から聴取した利用者の思い・願いもいれて本人本位のケアプランに繋げるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入所時面接でも生活歴など把握しますが、入所後も居室担当制を設け、担当者は出来る限り把握に努めております。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一日の過ごし方は詳細にケース記録に記録されカンファレンス会議に活かされています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・家族・職員とで話し合いを持ち、介護計画を作成しています。出席できない家族の方には作成してから説明し同意を得ております。	現場職員の意見やアイデアを良く採り入れ、家族の希望や介護相談員の意見もいれ、ケース記録やフェースシート等を基に利用者にとって必要な目標を決め、実現可能なプランを作成している。モニタリングは毎月行ない、プラン見直し時は必ず家族同席で実施している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子を記録に残し、職員間で情報を共有しながら介護計画の見直しをしております。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の要望に対して柔軟な支援をしております。リハビリ体操・口腔体操・趣味を活かしたサービス等しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近くに公園・お寺・広場などあり、季節を感じながら花やどんぐりの実を拾い作品作りをしました。また、小さい子供達の運動会も楽しみました。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	かかりつけ医による月2回の訪問受診や、家族が希望される時は一緒に立ち会い適切な医療が受けられるよう支援しております。	現在、利用者のほとんどが提携医療機関での受診となっている。月2回の訪問診療が行なわれており、また医療機関とは24時間対応の体制がとれているため、利用者・家族にとって安心感が得られている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職は日々のかかわりあいの中で異常に気付いた時は、看護師に連絡し適切な受診の指示をいただいています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくり	入院された場合は、病院関係者と情報を交換し、現在の治療状況を確認し、退院に向けて家族を交えて話し合っています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時にご家族様と事前指定書を交わしており、それに基づいて関係者の方々と支援していく方針をとっています。	「重度化した時の事前指定書」と「看取り指針」を作成して医療機関と連携を取りながら利用者・家族の希望に沿える支援をしていて優れている。医療の度合いが強くなってきた場合には入院支援をし、早くホームに帰れるよう見舞いなど行なっている。今年看取りの経験があった。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を随時行なって、実践力を身に付けるよう努めています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練を実施し、職員全員が避難誘導などの方法を身につけ、緊急連絡網も整備して直ぐに解かる場所に掲示しています。	年2回の消防訓練では消火器の使い方、夜間の避難訓練等毎回テーマを決めた訓練が行われている。設置してある避難用螺旋形滑り台を使った模擬訓練も行っている。消防の指導で利用者をベランダまで誘導する訓練を重視し実施している。連絡協議会でのアイデアで防災ズキンも備えている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	業務マニュアルにも明記されセンター会議でも研修しております。	尊厳とプライバシーに関する業務マニュアルを職員全員に配布し、毎日の支援の中で気付いた点や改善すべき点を直ぐ指導・教育をするように管理者は配慮している。最近入所の困難事例では職員と話し合いながら尊厳とプライバシーへの配慮について研修を行なった。他人の居室のドアを間違っけて開けてしまう利用者もいるので、見守りなどでプライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望を自分で決定できるよう、ゆっくりと耳を傾けております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりのペースを大切に希望に沿えるよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	洋服に着替える時は自分で選んでいただいております。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者が出来る野菜切りや出来あがった料理の盛り付けなど職員と一緒にしない、食後の後片付けも一緒に行なっています。	業者からの食材を利用者の摂取能力・嚥下状態に応じて調理され配膳、後片付けなども職員と一緒にしている。当番の利用者の発声で食事が始まる。週1～2回は利用者の希望メニューを作って好評を得ている。クリスマス会や盆踊り会等の外食も企画・実施し、またホーム内でうどん・ケーキ作り等食事を楽しんで頂くための工夫に余念がない。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量・水分摂取量をチェックし、日々確認して支援しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の口腔ケアを行なっておりますが、できない方については介助しております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを生かし誘導や声掛けにより自立に向けた支援を行なっています。	職員は排泄チェック表で把握して、自立排便になるよう声かけ誘導をして、昼間は出来るだけオムツしない支援を行なっている。食物の種類とか散歩等で便秘対策への支援も確認できた。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘しやすい方にはヨーグルト・冷たい物など飲んでいただき、果物はほぼ毎食付けております。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週4回の入浴日があり、入浴を楽しんでいます。入浴の曜日は決めています。	週4日の入浴日を柔軟に機能させ、利用者の都合と要望で入浴して頂いている。シャワーチェア等を使い転倒に配慮された支援がされている。ゆず湯・菖蒲湯・入浴剤等で楽しい入浴となるよう変化を持たせている。自立での入浴が難しい人には職員が入浴介助で対応している。リフト浴も設置している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	夜はゆっくり眠れるよう、1日1回の散歩に出掛けるようにしております。昼食後は一時間ほどベッドに横になっております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	主治医・看護師の指導のもと、服用しているお薬については処方箋綴りにファイルし、用法・用量を理解できるようにしております。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人ひとりが折り紙・絵・歌・散歩・読書を楽しんで生活できるよう支援しております。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	お天気の良い日は買い物・散歩などしておりますが、家族と外食や展示会等にも出かけております。	散歩は日課と決め、殆どの方がクルマ椅子利用者も含めて実施している。買い物や利用者が作った作品を鑑賞するため文化祭に出掛けたり、盆踊りの参加やお寺や公園へのお出かけなど利用者が眼を外に向けられるような外出支援が窺えた。今回はバスをチャーターして成田山詣でを実施し利用者・家族から好評であった。	アンケートから、日頃の外出支援などの状況が、一部利用者家族にうまく伝わっていないように見受けられた。「お小遣い報告」時や電話連絡などで、日頃の戸外への支援内容を小まめに発信されるよう期待する。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人が購入したい物があれば、一緒に出掛け自分で支払いをしていただくよう支援しております。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	年賀状を出したり、自らが電話をしたい時にはできるよう支援しております。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用空間では草花による季節感や、折り紙による手作り作品を飾って、居心地のいい場所になる工夫をしております。	日当たりの良い、採光を考えた共有空間には季節毎に絵や書道、折り紙、草花等で飾り付けをしてあり、利用者の得意な物を飾る事で個人を大切に空間作りとなっている。場面観察時ではツリーや飾り付けでクリスマスの雰囲気が演出されていた。決して広くないリビングルームだが、利用者と職員が共に寄り添う姿が印象的である。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有空間ではいつでもテレビを観たり、音楽を聴いたりすることができるようになっております。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	自分で使い慣れた品を持ち込み、本人が居心地良く過ごせるように工夫しております。	利用者の大切にされていた物、大事な物を自由に持ち込んで自宅と同じように自由な飾り付けがされている。観葉植物や絵画・家族・孫の写真等で飾りつけがなされており、利用者夫々個性をもった居室となっていて、不安なく過ごし続けられる工夫が確認できた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日・時間を毎日掲示し、自覚を持って生活できるようにし、その月の予定も記載掲示して楽しみを持ちながら生活できるようにしております。		